

議 事 概 要

1 開会

- ・事務局から開会の挨拶を行い、配布資料の確認と欠席委員の報告、委員の変更を行った。

【配布資料の確認】

- ・会議次第
- ・資料 1 : 委員名簿
- ・資料 2 : 平成 22 年度事業の実施結果と平成 23 年度事業計画
- ・資料 3 : 平成 22 年度 環境教育関連事業の実施結果
- ・参考資料 札幌市温暖化対策推進ビジョン概要版
- ・参考資料 学校における環境教育の実践事例集
- ・参考資料 札幌市の総合的環境副教材
- ・参考資料 「かんきょう元気通信」(冬号)
- ・参考資料 かんきょう元気新聞(冬号・春号)
- ・参考資料 平成 23 年度札幌市学校教育の重点
- ・参考資料 札幌らしい特色ある学校教育 実践資料集

【欠席委員の報告】

- ・森田副会長、伊藤委員、小路委員、米倉委員、鷲田委員は欠席。

2 挨拶

- ・札幌市環境局環境都市推進部長から挨拶があった。

3 議事(1) : 平成 22 年度環境教育関連事業の実施結果について

(2) : 平成 23 年度環境教育関連事業計画について

- ・資料 2、3、参考資料に基づき、事務局から説明を行った。

<人材の育成>

- ・札幌市教育センターにおける研修
- ・環境教育リーダー制度、環境保全アドバイザー制度
- ・環境教育に係る実践事例集

<情報の共有・活用>

- ・ホームページによる情報提供
(札幌市環境局 HP、札幌市教育委員会 HP、札幌市環境プラザ HP)
- ・かんきょう元気新聞
- ・かんきょう元気通信
- ・環境教育に係る実践事例集
- ・エコスクール宣言シート(教育委員会)

<プログラムの作成>

- ・総合的環境副教材の修正・教員用手引書の作成

・札幌らしい特色ある学校教育実践資料集（教育委員会）

<機会づくり・場づくり>

- ・校外学習用バス貸出
- ・さっぽろこども環境コンテスト
- ・環境未来カップ2010
- ・環境教育へのクリック募金
- ・さっぽろっこ環境ウイーク

【質疑応答・意見・感想等】

<人材の育成>

（学校における環境教育の実践事例集について1）

- ・ 環境教育の実践事例集を見せていただきました。2年前に私がセンターにおいて研修講座を持たせていただいたときに、先生方は、実践はしているけれども、どれが環境教育に当たるのか、持続可能な社会の実現と言っても、実際に水や緑でどんなことをするのか。ごみはすごくわかりやすいけれども、自分たちのふだんやっている学習とどう結びつくのかというところがすごく疑問に持たれておりました。

そこで、1番は、ふだんやっている日常の取り組みを整理していく中で、明らかに環境に結びつくことがたくさんあるのだということをお話したことを覚えています。そうした中で、それも環境の視点で見ると確かな環境教育なのだということが先生方に気づきとして一番大きかったと思います。それが手にとって見える形の実践事例集となったことはすごく大きな一歩だと思います。もちろん、小学校では各教科をそれぞれ学習していくのですけれども、それと並行して、この環境教育の実践事例集であるならば、これはうちの学校の何年生でやっているこれだよねと、どんどん照らし合わせながら、自分たちが環境教育をしているのだということ意識して進むことができる、これはすごく大きな一歩ではないかと思って見させていただきました。（白崎委員）

（学校における環境教育の実践事例集について2）

- ・ すばらしい事例集ができたなということで、今のお話を聞いておりました。そこで、ちょっと残念かなと思ったことが何点かありまして、省エネルギー教育を関連したエネルギー教育はその他のところに分類されているのでしょうか。ソーラーパネルというものは独立しているのですけれども、照明を消したり、省エネというのはその他のところに入っているのかなというのが、エネルギー教育が目次として入ってくるようになれば。（宮森委員）
- ・ 今回の実践事例集というものと、教育委員会でやっていただいている「さっぽろエコスクール宣言」というものがあります。例えば、使っていない教室の明かりを消すという取り組みは、今回の取材でものすごくいろいろな学校でやられております。ただ、そういった中の日常の取り組みとはまた別に、例えば、地域と結びついたり、そういった取り組みを今回は実践事例集ということで抽出させていただいております。（事務局：環境局 高田）
- ・ カテゴリー別という中で、環境教育とはどういうことをやっただいのかということでこのカテゴリーを見ると思っています。エネルギーについては、今回の事故でもエネルギーの問題を考えることが非常に重要になっています。図書分類でもそうですが、いろいろなことについている総記という欄ではなくて、エネルギーでも引いたらその学校が出てくる、畑でも出てくるという引き方にすれば、環境教育とはこういうことをやるのかということがわかってもらいやすいと思います。（小林会長）

（環境教育リーダー、環境保全アドバイザーについて）

- ・ もっと上手にこの制度のことを広めることができれば、使いたいと思っているところは多いと思

ますので、そのマッチングですね。そこの工夫はまだまだいろいろできるのではないかと考えています。（丸山委員）

- ・ 私は、札幌市ではなくて、道の環境トレーナーと言いますが札幌市を見ますと、個々のアドバイザーがどういう題材でどんなふうに展開するか、細かく書いていないのです。道の場合は書いてあるのです。ですから、私は、温暖化に対して私たちは今何ができるかということテーマに置いておくと何でも話せるのです。ですから、例えば学校であれば小さな実験とか、一般の方でも行動を具体的な事例で考えましょうという形でコメントが書いてあるのです。そうすると、要望がたくさんあるのです。個人ごとに書いてあって、冊子がありますね。あれに自分が講演などで何を皆さんに話したいかを書いていただければ、それがきっと手がかりになるのではないかと気がします。（藤田委員）

<情報の共有・活用>

（エコスクール宣言について）

- ・ 宣言をするということも、それぞれの学校で教員と生徒が一丸となって、宣言をするからには、何について明示しようかと皆さんも恐らく協議をしたでしょうから、そういうことを通じて大変いい成果が生まれてきたのではないかと思います。「見える化」ということで、子どもへの教育がメインですけれども、子どもを通じて地域社会や親にもそれがずっと広がっていくことで、成果が上がるための一歩、二歩になっているのだと思います。（小林会長）
- ・ すごく保護者への意識づけになると感じております。エコスクール宣言のステッカーだけでなく、実際にうちの学校はこの画面を職員室の廊下に張っているのですけれども、そうすると、学校に来られたお母さん方も、これはいつから見られるのですかとか、そんな意識がすごく高まってきています。子どもたちも、自分たちのやっていることは普通の学習ですから、普通の学習がエコになるのだと、へえ、そうなんだという驚きになっているのは事実です。本当にこれ1枚で大きな効果があると思います。（白崎委員）

<プログラムの作成>

（札幌らしい特色ある学校教育 実践資料集について1）

- ・ 補足になるかどうかと思うのですが、先ほど、38ページから39ページの指導計画について渋谷先生からお話をいただきました。これは、いろいろ考えて結構苦労してつくったのですけれども、先生が一番使うのは、教育課程作成の手引という本がありまして、ほとんどそれを見て、毎週、授業の打ち合わせをしていると言っても過言ではないほど使っていると思います。各教科や領域のいろいろな単元でこういう学習が網羅されていますので、まず、左側のページは、そこにある学習の中で環境にかかわるものを抜き出して書くことによって、環境はこういう意義がある単元なのだということを意識して授業をしてもらいたいという意味でつくりました。

右側の方は、授業だけではなくて、学級づくり、学年づくりの中でも環境教育はやっていけることをあらわすためのことを一つ考えて、もう一つは、副読本とか、今、結構忘れ去られている環境プログラムとか、いろいろいい本が出ています。その財産はここにあって、こういうところに使えるのだということを当てはめて、出典を全部明らかにして、ここを見れば細かく載っているという私がかかわった何年間の札幌市の履歴を全部入れて、これを見れば全部使えてくるというような、例えば、副教材も全部載せているわけではないのですけれども、幾つか出てくることによって、ほかのところも関係があるからやってみようという話になってくるのではないかとということで、こういう全体図をつくったということです。（三木委員）

- ・ 38ページ、39ページと、次のページには中学校の部分が書いていますけれども、今、三木委員が言われたように、手引との関係、それから副教材との関係がそれぞれ書いてあります。すばらしく使いやすいですし、いい感じですね。網をかけて、2色刷りなので、とてもきれいな環境らしい本の

つくり方になったと思います。

特に、今回の大災害は本当に不幸な事故ですけれども、水や電気、食べ物などあらゆるものがないということがどのくらい大変なことか、それをどうやってつくっているのか、それがどうやって流通して日本社会の中で成り立っているのか、いろいろなことを改めて認識しました。電気を使わないためにはどんなことがやれるかなどですね。ですから、今回のようなテレビや新聞を見たことから子どもにいろいろ抜き書きさせておくのもすごく参考になるだろうと思います。三木委員には、学年と今の課題と取り組みの仕方、科目別に大変うまく整理していただいたので、本当に使いやすい宝物だと思います。一番後ろにご協力のあった先生方のリストが載っていますけれども、皆さんも休み返上で随分ご苦労してすばらしいものをつくってくださったと思います。（小林会長）

（札幌らしい特色ある学校教育 実践資料集について2）

- ・ 1番の人材の育成とかかわって、実践資料集と実践事例集があるのですが、実践事例集の方は研修におけるテキストとして活用していくということがうたわれているのですが、こちらの実践資料集の方をテキストにするということはお考えになっておられないのでしょうか。（大野委員）
- ・ まさに、そこが非常に大事だと私も考えておまして、いろいろな対象は考えられるのですが、まず、札幌の4月から新しく入ってくる初任者の先生方すべてにこれを使った研修を、今、研修担当と調整をしながら進めているところでございます。これからの環境教育を担っていく若い先生方にまずというふうに優先づけをしているわけではないのですが、まずは新しいところで活用してまいりたいと思っています。きっと、ほかにもいろいろな使い方ができると思うのですが、もし、その辺についてご意見があればいただきたいと思います。（事務局：教育委員会 渋谷）
- ・ 事例集も大事ですが、資料集も、先ほど紹介がありましたように、非常に貴重な事業プランが書かれているので、ぜひ活用していただきたいと思ひますし、教員一人一人に配られているのであれば、現職を対象にした研修をやる時に持ってくるように条件づけをするなどして、活用していくというふうに持って行っていただければと思ひました。（大野委員）

（札幌らしい特色ある学校教育 実践資料集について3）

- ・ きょう配付されたものは実践事例集とか実践資料集という形になっていて、どちらも付録的な名称になっていますが、学校の先生がこれがテキストだと専ら見るものはどれになるのでしょうか。（丸山委員）
- ・ 同時期に出ているのでなかなか難しいのですが、実際に授業の中で環境というテーマの学習をしていくと、実際に先生方はどういうふうに進めるか、どういう目標やねらいを持ってということらをまず考えて授業構築に当たるわけです。そのときには、こちらの資料集が指針になってくると思ひます。そこに特化した資料というふうに考えていただいてよろしいと思ひます。（事務局：教育委員会 渋谷）

<機会づくり・場づくり>

特になし

<その他>

- ・ 今年度も1年間、かんきょう元気新聞にかかわらせていただいて、とても感謝しています。毎回、回を重ねるごとにすごくいいできになっていると思うし、できたものが本当に宝物のような感じですが、小学校に行ったときに張っていないのがとても残念です。担任の先生にもお話ししましたし、校長先生にも声かけを何度かしたのですが、どうしてもクラスに1枚というふうには張っていただけてなくて、うちの子どもは5年生ですが、6年生の教室を見ても1クラスだけ張

ってあったなという感じなので、何とか定着して全部に張っていただけるとうれしいなと思いました。
(高坂委員)

- ・ 現在の環境教育基本方針推進委員会は、教育委員会との連携が強い現状で進めていて、学校を通しての環境教育ということでは大変実績を積んできたと思うのです。今後もその流れでいく予定なのか。例えば、温暖化対策推進ビジョンの方でも環境教育の充実が上がってきたということは、何か新たな役割が発生するのかどうかということについて何かお考えはありますか。(丸山委員)
- ・ 今、札幌市では環境教育の中でも、重点化対象を子どもとして、そこは教育委員会との連携でやっている事柄です。ですから、この委員会での今後のお話につきましても、ビジョンも策定いたしましたし、宮森委員からエネルギー環境教育のお話もありましたし、温暖化対策ということもある程度中心に据えて、今後の環境教育を特に教育委員会と連携した中で進めていきたいと考えています。(事務局：環境局 小野)
- ・ 大変具体的な案が着々と取り入れられて、環境教育も大分進んだなという実感があります。さらに、幅広い参加者が出てくれればなおいいなと思います。特に、先ほど、学習用バスがものすごく人気があると仰いましたね。私も、去年までは環境省に籍を置いてこういう事業にタッチしていたのですが、どこの環境施設へ行っても、その施設のプログラムがばらばらなのです。むしろ、行ったらそのとき、そのときでつくるわけです。これをある程度きちんとしていて、プログラム集のようなものが先にあったら、それを見て、ここへ行った方がいいとか各学校でもっと具体的に案を考えられるのではないかと思います。そういうふうに例示したコースをつくったら、そっちに殺到してしまうのです。ですから、学校が自分の感覚で選べるようなものをつくられたら、さらに質の高いものになるのではないかと思います。(藤田委員)
- ・ 今回の地震のことで家でも省エネの話がすごく出たときに、子どもたちも、今までは言ってもそんなに行動しなかったのですが、知識は持っているのだということがすごくわかって、その地域が今回は実際に行動となって、自分たちからすごく動いてくれたので、地味に、地味にですけども、こういうふうに環境のことをいろいろなところで広報されていることで、子どもたちの中には根づいているのだなと感じました。(高坂委員)
- ・ 二つ話をしたいと思います。一つが、今回出ました温暖化対策推進ビジョンです。この中に非常に詳しくいろいろ書いてあるのですが、例えば、車に関して、交通に関しての視点が少ないのではないかと思います。温暖化対策として、子どもたちも一番最初に交通機関を公共にするとか、そういったことを意識して学習していきますね。例えば、まちづくりといった視点を環境とリンクさせることはできないのか。札幌駅の地下歩道とか、創成川の緑地とか、市電の延伸とか、そのまちを全体的に考えていったときに、私たち札幌はどんなまちを目指していくのか、フランスのストラスブールを目指していくのか、そういったときに環境と交通の視点をリンクさせていく必要があるかなと思うのです。例えば、子どもたちで学習していくならば、排気ガスとはどんなガスかとか、市電のよさを調べようとか、もしも自分がドライバーだったらとか、四つ星マークの車を探せとか、未来のソーラーカーとはなど、札幌のまちづくりと環境をリンクさせていながら、視点を広げていく総合的な学習がどんどんできてくるのではないかと考えています。
- ・ もう一つが、雪とのリンクです。雪、環境、読書とあります。もちろん、渋谷係長が進めていく中で雪と環境はすごくリンクしているということを考えられていると思います。例えば、雪の学習をしていく中で環境的な視点はどんどん出てくるだろうと思うのです。ここにある除雪の事例も、年間150億円のお金を使って除雪をしているぞ、一体どれだけの除雪だ、何十台もの除雪車がこれだけの道を、100万人以上の都市で5メートルの雪が降るのは世界で札幌しかない、果たしてこんなに除雪をしてまで今の交通を完全に成り立たせる必要があるのだろうかという視点です。逆に言うと、公

公共交通機関が動いていれば、自家用車は冬はどうしたらいいのかという視点です。これは、私が学習していく中で子どもから教えてもらったのです。この学習をしていくと、僕たちはどうしても除雪をしっかりとしなければならぬという視点に立つけれども、子どもは逆に除雪そのものを見つめ直した方がいいのではないかという視点に立っていくとか、雪と道と環境といった視点も子どもの学習素材に十分立ち上がっていくのではないかと思います。この二つの視点をこれからのもう一歩にしていければなと思って見させていただきました。（白崎委員）

閉会

（事務局から閉会の挨拶）

- 以上 -